

川野鳥



第 101 号

2019 年 9 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>



2019年2月下旬から四日市市足見川周辺でメガソーラー建設工事が始まった。業者に対して三重県みどり共生推進課の強力な指導もあり、サシバの営巣地が潰されること無く保全される事が決まりました。しかし、営巣時期にもかかわらず業者は工事を続行し、営巣放棄が心配される事案も発生しました。その度に三重県や経産省からの指導でその危機を回避する事ができました。今回はサシバが無事営巣した事までお伝えしましたが、その後の状況を報告します。

サシバの抱卵

メガソーラー計画地東側に営巣する波木ペアは4月24日に交尾が確認され、5月に入ると抱卵のため雌の姿を見る事ができなくなりました。しかし、5月17日には、雄が縄張りで狩をして営巣地へ運ぶ姿を見る事ができ、順調に営巣している事が分かりました。同じく計画地西側隣接地に営巣する山田ペア、及びやや離れて営巣する八王子ペア共に5月30日には雄の餌運びが確認され、どの営巣地も順調に営巣が進んでいる様でした。

雛の孵化

雌の抱卵中は雄の活動も目にする機会は少なく、1日観察していても目撃できない事がありました。やがて雛が孵ったと同時に餌運びの回数が増してくるので、雄の姿を目撃する機会も増え雛の成長が順調である事が分かりました。雄の狩場は10箇所近くあり、雛が生まれると10分から30分で餌を持って帰ってきて雌に餌を渡すと直ぐに違う場所へ狩りに向かっていました。狩場が少ないと狩の成功率も下がる事から雌から催促の鳴き声を聞くことが多くなり、運ぶ回数が減ると雛の成長に支障がでます。それほど狩場の確保は重要で、今回の工事着工で波木、山田ペア共に狩場の減少が心配されました。

表紙の言葉

ソーラーパネルでお休み中のダイサギたち

度会町 小坂 里香

聞き耳頭巾で立ち聞いたら、こんなこと言ってたとか言わなかったとか、

「なんや最近、こんなとこ増えたなあ、水に浮いとるやつらやら、脚の短いやつらやら、難儀しとるぜ。」

「みんな、どっか行ってしもたな。」

「と言うても、ええとこ、田んぼも池もドンドンこないなるし、行くところないわな。」

「水の中もめっきり餌が減ったなあ、これいったい、何なんや。」

「電気ってもん作るらしいわ。」

「それ、食べるもんと違うやろ？ワシらには迷惑なだけやなあ。」

「こうやって休んでても、ツルツルして居心地悪いな。まあ、せいぜい腹いせに糞でもひっかけとくわ。」

目次

足見川サシバの巣立ち 2019年	2
表紙の言葉	2
第27回中部ブロック会議報告	3
ヤマガラとホオジロの蟻浴	5
オシドリの衣替え	6
事務局だより	7
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化	8
第17回 シベリアオオハシシギ	8
日本野鳥の会三重2019年度 総会	12
野鳥記録	15
野鳥記録の投稿ページが新しくなりました	16
探鳥会予定	17
探鳥会報告(2019年5月～2019年8月)	18
編集後記	20

雛の巣立ち

雛が育ち産毛が抜けて幼鳥の羽根に生え替わりと雌が保温する必要も無くなり、雌は巣から離れる事が多くなり、営巣木周辺で天敵の監視と育児の息抜きのために高木へとまります。営巣地周辺には複数のカラスが縄張りを構えていて侵入者が入ると威嚇行動に出ます。しかし、サシバとカラスはお互いの縄張りを侵犯しなければ無駄に争うことは無く、むしろ猛禽類の侵入には協力して排除する事が多いです。ところが雛が成長し鳴き声が大きくなると、謎の侵入者と認識するのかカラスがサシバの縄張りに入って来て争いになる事が多くなり、雌がカラスに対して執拗に威嚇する様になります。そして、7月16日に山田ペアの雛2羽の巣立ちが確認され、7月24日には、波木ペアの幼鳥2羽も確認する事ができました。

渡りの準備

サシバは9月になると南国へ渡りを開始します。巣立ちした幼鳥は、しばらく親から餌をもらいますが、甘えている余裕は無く、自立して自分で狩りをして餌を取り体力を付けなくては命がけの渡りを乗り越える事はできません。巣立ちをして、しばらくすると親鳥は営巣地付近には姿を現さなくなり、幼鳥は餌をもらえなくなります。仕方なく自分で餌を探しに周辺へ狩りに出るので、営巣木周辺ではサシバの姿はあまり見なくなります。



山田ペアの幼鳥 2019/7/10

今年の波木ペアの幼鳥は巣立ちが遅れた分、自立の時間が少なく、この試練を乗り越えられるのか心配されます。山田ペアよりも巣立ちが遅れたのは工事の影響が大きいのでは明らかなです。今年、巣立った幼鳥が無事渡りを終え、来年ここへ帰って来てくれる事を切に願います。

最後に

来年以降も三重県に来る夏鳥達の繁殖が平穏に行われることを願っています。我々一人一人がこの住んでいる三重の環境を良い状態で守ろうと意識が必要ではないでしょうか。今、問題となっているプラスチックごみも人が安易にポイ捨てせずに、気が付いた人が積極的にゴミを拾うというところから意識を変えていく必要があります。

第27回中部ブロック会議報告



四日市市 安藤宣朗

2019年6月8日(土)から9日(日) 飛騨にゆうかわ温泉(高山市丹生川町)にて岐阜大会が開催された。

参加者は、中部ブロック各地から33名、財団(本部)から5名、地元岐阜のスタッフ13名、合計51名、三重からは理事3名が参加した。

初日は、講演、協議事項および報告事項、2日目は、乗鞍スカイライン経由豊平にてライチョウなどの観察会があった。その概要を報告する。

1. 講演

「乗鞍岳のライチョウ」 講師：小林篤氏 東邦大学地理生態学研究室

日本に生息するライチョウの保護や繁殖について



中部ブロック会議 岐阜県支部代表挨拶



乗鞍 ライチョウのつがい

長年携わった経験談を交え、海外のライチョウの実態など興味深い講演であった。

2. 協議事項

愛知支部から2件の提案があり、協議の結果本部などとの調整が必要なため結論に至らず次回継続協議となった。

- ① 中部ブロック各団体が保管する鳥情報のデータ化
- ② ガンカモ調査の育成システムの構築

3. 報告事項

① 若年層への普及活動の紹介(学校等への観察会の状況)・・・遠江支部
 「遠江の鳥バードウォッチングガイドⅡ」を出版し、地域の全小学校119校へ無償配布、2018年度に11回観察会を実施して若い世代へのアプローチを実行した。

② モニタリング調査活動の現状と冬鳥(ツグミ)の調査結果の考察・・・遠江支部
 冬鳥のモニタリング調査を継続的に実施している。ここ数年の「ツグミ」のデータでは大幅に減少しており2019年は2015年の半分以下で暫減傾向である。

継続調査報告

① カンムリカイツブリ調査報告・・・新潟支部
 中部ブロック初の調査報告があった。富山・石川・福井・新潟での繁殖が確認されている、今後継続して調査するので各県からの情報提供の要請があった。

② ジョウビタキ繁殖の状況・・・岐阜
 高山市で2015年に2か所を初認、2019年に30か所の繁殖を確認した。急激に増加している、繁殖場所は標高600m程度で林地周辺の民家の軒天や換気扇フードなどで営巣している。

③ イソヒヨドリ発表・・・イソヒヨドリプロジェクトチーム(発表 愛知 新實氏)

「イソヒヨドリの分布調査」最終調査として報告があった。

内陸への生息域を拡げていく変化は顕著には見られないが、海岸からの距離は110km(長野)地点まで確認された事もあり内陸に生息域を拡げていることが分かったまた、標高2,433m 富山県の立山室堂平でも確認されている。

④ ミヤコドリ調査報告・・・三重

中部ブロック地域内でミヤコドリの生息が無いかアンケートを実施した結果2018年度の最大観察数は合計135羽であった。

やはり伊勢湾内での生息が主体で三重県:120羽 愛知県:13羽 日本海側でも観察例が有り 石川県:1羽 福井県:1羽が観察されていた。

2日目のライチョウ観察

濃霧が漂う悪天候であったが、乗鞍スカイライン山頂近くの岩の上で監視するライチョウや豊平の散策路脇を目の前で餌をついばむ雌雄の姿など楽しませてくれた。ライチョウのほか、イワヒバリやカヤクグリなども観察できた。

『感想』

今会議のテーマは「ライチョウ」と言うことで興味深い講演やライチョウを観察しながら岐阜代表大塚氏からライチョウに関する経験豊かな解説があり、ライチョウについて深い知識を得たブロック会議であった。

最後に担当された岐阜の方々の行き届いた心遣いと準備に感謝します。



カンムリカイツブリ

ヤマガラとホオジロの蟻浴



名張市 田中 豊成

7月の16日の早朝に、名張の緑ヶ丘住宅地横の小さな脇道でのことです。高圧鉄塔があり、地面はセメントで覆われていて、ひび割れた筋に蟻の巣があるようでした。

そこに、ヤマガラが普段とは違い体を擦り付ける行動をしていました。なんじゃいな？と、思い観察をしました。それは、蟻浴びだとやっと気がつきました。尾羽は地上にあてて体に登るようにしたり、這い出た蟻を嘴でつまんで羽毛の中に入れてました。それから、蟻酸を出すように体を回したりしていました。

蟻たちは、侵入者から巣を守るために蟻酸を出すので、ヤマガラはそれを利用して、ダニや細菌などから体の防御をしているようです。蟻からの攻撃を楽しんでいるかのごとく、20分ほどしつこくやりました。

その後、なんと今度はホオジロ幼鳥が同じ場所と同じ事をやり始めました。こちらは約15分ぐらいでした。蟻浴びは、本等で知ってましたが見るのは今回が初めてでした。カラスやキジバト、スズメもやるそうですが、ヤマガラやホオジロも行うのですね。

ホオジロ幼鳥がするとは、不可解です。親鳥に習ったのか、他の鳥から学習したのか、それとも遺伝子から行うのか？他の鳥からの学習では、効果が分からないはずと思うのです。やはり、遺伝子に組み込まれているのかもしれない。よう分かんずです。



ヤマガラの蟻浴



ホオジロ幼鳥の蟻浴 拡大



ホオジロ幼鳥の蟻浴



ホオジロ幼鳥の蟻浴

オシドリの衣替え



名張市 田中豊成

今年 2019 年の 7 月 2 日に、名張川の砂州でオシドリ雄が腹部辺りの羽毛を引きぬいている場面に出会いました。付近には白い羽毛が散乱していました。そのオシドリ雄の羽色は、綺麗な繁殖羽がかなり抜け落ちて、哀れな姿になっておりました。11 日になると、一段と羽毛が抜けてエクリップスの姿になりつつある感じがしました。

そこで、冬に見られる繁殖羽からエクリップスへの変化を、自分の写真の中から選び出してみました。

各写真は、7 月以外は同じ個体ではないのと、撮影をした年も違いがあります。変化の具合を見ていただければと思いました。

名張市では、オシドリが少数ですが繁殖をしています。時には、雌親が雛を引き連れている場面に出会うこともあります。7 月にいたオシドリは、ペアでいたのですが雛はいませんでした。繁殖に失敗したのか、雛達が親離れをしたのかは分かりません。



3月7日



6月4日



6月10日



7月2日



7月11日



7月17日



エクリプス 8月26日

事務局だより

活動の記録（2019年6月～8月）

2019年

- 6/8~9 第27回中部ブロック会議・岐阜（飛騨にゅうかわ温泉）へ参加（3名）
- 6/10 （株）サクシードインベストメントへ「津市波瀬太陽光発電所造成事業に係る環境影響評価準備書に対する意見」を提出
- 6/30 会報「しろちどり第100号」発行・発送作業
- 6/30 2019年度 日本野鳥の会三重・総会 & 野鳥講座 開催（三重県教育文化会館）
- 7月 足見川周辺のサシバ観察
- 8/5 ミヤコドリ一斉調査
- 8/7~8 宿泊探鳥会（富山県・立山）

※匿名の会員様から、多数の郵便切手をご寄付いただきました。厚くお礼申し上げます。

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化 —連載第 17 回 シベリアオオハシシギ—



津市 今井 光昌

シベリアオオハシシギは日本では数少ない旅鳥で春秋の渡りの時期に渡来します。三重県では1996年5月に成鳥、2003年8月に幼鳥が記録されています。その後、15年間は記録が途絶えていましたが、2018年5月10日に松阪市の水田に、翌2019年5月13日に松阪市の金剛川河口に、2年続けて渡来しました。

久しぶりに現れたシベリアオオハシシギは兩年とも5月中旬の夏羽の完成度の高い成鳥でした。夏

羽に換羽し赤くなったシベリアオオハシシギは遠目にはオオソリハシシギ♂夏羽と似て見えます。シベリアオオハシシギはオオソリハシシギより体は小さいのですが、オオソリハシシギも♂夏羽は赤くなり、♀に比べて体が小さいからです。

図1はオオソリハシシギの群の中にいた1羽のシベリアオオハシシギですが、同色のオオソリハシシギ♂の中では見過ごしてしまうかも知れません。



図1 成鳥夏羽 2019.05.13 オオソリハシシギの群れに混じるシベリアオオハシシギ1羽
シベリアオオハシシギは中央矢印の個体です。オオソリハシシギ♂夏羽と似ています。



図2 シベリアオオハシシギ 成鳥夏羽
2018.05.10



図3 シベリアオオハシシギ 成鳥夏羽
2019.05.12

図2の左後方はチュウシャクシギです。2018年のシベリアオオハシシギは水田を好み、図3の2019年の個体は5日間の滞在中、水田に入らず海辺で過ごしました。図鑑ではシベリアオオハシシギの生息場所は干潟、水田、湿地などとなっています。

シベリアオオハシシギ夏羽の羽模様

シベリアオオハシシギ夏羽は上面の軸斑が黒褐色で赤褐色と白色の羽縁があり、各羽は細長く先端が尖り気味です。下面は脇から下尾筒に黒褐色の斑、腰と尾に横斑があります(図4)。

シベリアオオハシシギ(図5)はオオハシシギ(図6)、オグロシギ(図7)、オオソリハシシギ(図8)に比べ羽模様に複雑さがなくすっきりしています。



図4 シベリアオオハシシギ 成鳥夏羽

シベリアオオハシシギと類似3種

シベリアオオハシシギの全長は33-36cmで、類似3種と比べると、オオハシシギ(24-30cm)よりは一回り大きく、オオソリハシシギ(37-41cm)、オグロシギ(36-44cm)よりは一回り小さいです。



図5 シベリアオオハシシギ 2018.05.10



図6 オオハシシギ 2018.05.10



図7 オグロシギ 2016.05.12



図8 オオソリハシシギ 2014.04.09



図9 シベリアオオハシシギ



図10 オオハシシギ



図11 オグロシギ



図12 オオソリハシシギ

嘴の比較

シベリアオオハシシギ、オオハシシギ、オグロシギは嘴が長く真っすぐです。この3種の中ではシベリアオオハシシギは嘴が太くて、下嘴基部はやや淡いですがほぼ黒いです(図9)。オオハシシギの嘴も黒いですが、上・下嘴とも基部半分ほどに淡色味があります(図10)。オグロシギは嘴の半分以上が肉色で、先端部は細く黒色です(図11)。オオソリハシシギの嘴は基部が肉色で先端部分が細く、やや上方に反っています(図12)。



図13 シベリアオオハシシギ



図14 オオハシシギ



図15 オグロシギ



図16 オオソリハシシギ

尾羽の比較

シベリアオオハシシギ夏羽は腰から尾に黒褐色の横斑があり、脇から下尾筒は白く、黒褐色斑があります(図13)。オオハシシギ夏羽も腰から尾に黒褐色の横斑がありますが、下面は赤褐色で、黒褐色の横斑です(図14)。オグロシギは腰・尾羽に横斑はなく、腰が白くて尾羽の大部分が黒く、胸から腹にかけて黒褐色の横斑があります(図15)。オオソリハシシギも腰から尾に黒褐色の横斑があり、夏羽の下面は赤褐色です。図16の個体は夏羽に換羽途中です。

なお、シベリアオオハシシギ、オグロシギは足が黒くて長いです。オオソリハシシギも足は黒いですが、前2種より足は短いです。オオハシシギは足が短く黄緑色です。



図 17 シベリアオオハシシギ 2018.05.10



図 18 オオハシシギ 2011.04.05



図 19 オグロシギ 2011.05.05



図 20 オオソリハシシギ (左)、シベリアオオハシシギ (右) 2019.05.12

翼下面の比較

シベリアオオハシシギは翼下面が白いことも特徴です(図 17)。オオハシシギは翼下面に黒褐色の小斑があるため灰色味を帯びて見えます(図 18)。オグロシギもシベリアオオハシシギ同様に翼下面が白いですが、腰と尾に横斑はなく白黒模様です(図 19)。図 20 は左がオオソリハシシギで、右がシベリアオオハシシギです。オオソリハシシギの翼下面には黒褐色の小斑があるため、翼下面全体はシベリアオオハシシギの方が白く見えます。

最後に

三重県ではオオハシシギは旅鳥または冬鳥として毎年少数が渡来していますが、シベリアオオハシシギの渡来はごく稀です。これまでに幼鳥 1 個体と成鳥 3 個体の記録はありますが、シベリアオオハシシギ幼鳥の写真が撮れていないため、今回は成鳥夏羽と他の類似 3 種(オオハシシギ・オグロシギ・オオソリハシシギ)の♂夏羽を比較検討しました。なお、シベリアオオハシシギは雌雄の識別が難しく、断定は出来ませんが、頭部から胸の赤褐色の強さからして♂成鳥夏羽ではないかと思っています。



総会は 2019 年 6 月 30 日、三重県教育文化会館 第 5 会議室で行われた。

1. 2018 年度活動報告

2018 年度 保護部活動報告

1. 足見川メガソーラーについて
四日市市で計画されているメガソーラー計画に対し、サシバの繁殖地を失うため反対をしている。
2. ミヤコドリ一斉調査
2018 年から 19 年の冬季に 3 回の観察を行った。
3. 経ヶ峰風力発電
津市経ヶ峰付近に計画されている風力発電に反対の署名活動を行った。代表が反対団体の発起人となった。
4. 各地の風力発電、ソーラーパネル設置について意見表明
松阪市（白猪山）、鳥羽市（船津町）、玉城町（勝田池）、津市（経ヶ峰）などに鳥類への影響から、反対などの意見表明を行った。
5. 木曾岬干拓地チュウヒ保護のための活動
毎月第 3 土曜日に干拓地内に立入調査を実施。
昨年は繁殖はなし、今年度は 6 月の調査の時点で繁殖が順調である可能性が高い。

2018 年度 研究部活動報告

1. ガン・カモ・ハクチョウ類調査
県からの委託事業として実施できなかったが、当会の独自予算で例年通り調査を実施しデータは県へ無償で提供した。
2. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査
春期、秋期、冬季の年 3 時期に実施した。
【県内のサイト】
一般サイト 城南干拓、鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸、阪内川河口
コアサイト 安濃川河口～志登茂川河口、雲出川河口五主海岸、愛宕川から櫛田川河口
3. 2018 年度カワウねぐらコロニー調査（県委託）
県予算の関係で年 1 回（3 月のみ）になっている。 ○協力者：会員 13 名

2018 年度 編集部活動報告

1. 会報「しろちどり」96 号 ～ 99 号 発行
2. ホームページ：「しろちどり」のバックナンバー創刊号から（現時点で 90 号まで）を PDF 化し、ホームページに公表した。その際、個人の電話番号、住所などの個人情報を削除した。

2018 年度 事務局活動報告

1. 総会 2018 年 5 月 27 日（日）一般財団法人 三重県教育文化会館
2. 理事会
臨時： 2018 年 4 月 1 日（日） 第 1 回：5 月 27 日（日） 第 2 回：11 月 24 日
第 3 回：2019 年 2 月 9 日（日） 臨時：4 月 14 日（日）
3. 日本野鳥の会中部ブロック会議
○第 26 回中部ブロック会議・新潟大会 2 名参加

○第 27 回中部ブロック会議・岐阜大会 3 名参加

4. 平成 30 年度日本野鳥の会連携団体全国総会へ参加 2018 年 11 月 10 日 (土) ~ 11 日 (日)
5. 全国鳥類繁殖分布調査 2016 年 ~ 2020 年まで

2. 2019-2020 年度 (2 年任期) 日本野鳥の会三重 役員

以下の方々が総会で役員として選出された。

- 【北勢地区】 近藤義孝 安藤宣朗 川瀬裕之 三曾田明 笹間俊秋
【伊賀地区】 前澤昭彦 南 一朗
【津地区】 平井正志 岡 八智子
【松阪地区】 西村四郎 吉崎幸一
【南勢地区】 中西 章 小坂里香 西村 泉
【東紀州地区】 なし

互選により、代表に平井正志、副代表に近藤義孝、安藤宣朗、事務局長に西村 泉、会計に中西 章が選出された。監事には 岡 八智子 吉崎幸一が選出された。

なお、南 一朗は新任である。また、永年にわたり理事として、会の運営に加わった石原 宏は退任した。

3. 2018 年度活動報告

2019 年度 保護部活動計画

足見川メガソーラーは設置されようとしているが、サシバの繁殖状況を調査していく。

木曾岬干拓地のチュウヒ保護のための調査を継続する。

各地に計画されている風力発電、ソーラーパネル設置について鳥類保護の立場から活動していく。

ミヤコドリ一斉調査、コアジサシの繁殖調査 (中部ブロック会議で実施することに)、を行う。

2019 年度 研究部活動計画

1. ガン・カモ・ハクチョウ類調査： 例年通り調査を実施する。
2. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査
3. 県委託 カワウねぐらコロニー調査 受託する予定

2019 年度 編集部活動計画

- 会報「しろちどり」を年 4 回発行する。(100 号は 6 月 30 日発行)
- 発行から 2 年を経過した号は順次公開する。その際、個人情報を削除する。
- ホームページの更新、拡充に務める。

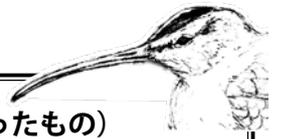
2019 年度 事務局活動計画

1. 総会 2020 年 6 月 開催予定
2. 理事会 4 回を予定
第 1 回：2019 年 6 月 30 日 (日)、 第 2 回：8 月、 第 3 回：11 月、 第 4 回：2020 年 3 月
3. 日本野鳥の会連携団体全国総会 参加予定
4. 全国鳥類繁殖分布調査 引き続き実施する。

日本野鳥の会三重 令和元年度（2019年度）予算書

科目	30年度予算	30年度決算	令和元年度予算	備考
	一般・特別合算	一般・特別合算	一般・特別合算	
<事業高>				
支部会費	590,000	597,000	600,000	2000円×300人
受託収入	291,600	343,540	298,000	カワウ26万他
受取補助金	0	0	0	
受取寄付金	0	7,000	0	
事業高合計	881,600	947,540	898,000	
事業利益	881,600	947,540	898,000	
<事業管理費>				
支払調査費	190,000	196,666	197,000	カワウ19万他
通信費	248,000	225,662	228,000	郵送料、電話料
印刷費	201,000	199,890	200,000	会報4回発行、行事案内等
消耗品費	82,000	71,206	87,000	封筒代他
会場費	16,000	19,764	15,000	
会議費	6,000	2,357	3,000	
旅費交通費	358,000	357,898	370,000	旅行10万、中部B8万、ガンカモ7万
支払手数料	21,600	21,600	21,600	
講師謝礼金	30,000	33,307	33,000	
図書費	5,000	0	3,000	
諸会費	5,000	5,000	5,000	
雑費	22,000	34,366	37,500	
事務費	10,000	24,000	10,000	
保険料	15,000	9,832	10,000	
一般管理費合計	1,209,600	1,201,548	1,220,100	
事業総利益	-328,000	-254,008	-322,100	
<事業外収益>				
受取利息	0	15	0	
雑収入	0	0	0	
事業外収益合計	0	15	0	
当期純利益	-328,000	-253,993	-322,100	
<税金等>				
法人税等	72,000	72,000	77,900	
税引後利益	-400,000	-325,993	-400,000	

野鳥記録 (2019年05月21日から2019年08月10日までに報告があったもの)



野鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所 (三重県)	雄/雌/ などの区別	記録報告者名	脚注
ホトトギス	1	5月25日	四日市市北部 (自宅)	雄	今西 純一	1
ミゾゴイ	1	6月21日	多気町地内		前田 聡・シズコ	2
ハシブトガラス (白化)	2	6月8日	四日市市下海老町		堀田 正昭	3
ハチクマ	1	5月23日	四日市市山田町 足見川		笹間 俊秋	4
ハヤブサ	1	7月14日	四日市 市波木町足見川	若鳥	笹間 俊秋	5
アジサシ	20	6月15日	四日市市楠町 鈴鹿川派川		笹間 俊秋	6
カンムリカイツブリ	4	6月21日	四日市市楠町 鈴鹿川本流	2つがい	笹間 俊秋	7

脚注

- 窓の外から「特許許可局」と4回声が聞こえました。渡りの途中で我が家の上空を通過したのでしょうか。
- 林道を車で運転中、枯葉が集まった場所でエサを漁っている後頭部が赤栗色、体の上面は暗栗褐色のミゾゴイを発見した。
- 数年前から時々見かけるようになりましたが今回は2羽一緒に行動しており親子と推測します。この2羽とともに黒い通常のカラス数羽も一緒に行動しており、血縁関係があると思われます。
(投稿ではカラスと記載されていたが、写真からハシブトガラスと判定した。=編集部)
- 足見川でサシバの観察をしていた時、カラスに追われていた。以前にもここで目撃したことがあるので餌場の一つの様です。
- 足見川でサシバの観察をしていたところ、サシバの警戒音の後に繁みから飛び出して来た。
- 鈴鹿川派川近くの埋立地の水溜まりにコアジサシと共に20羽ほど水浴びしていた。渡りの途中と思われる。
- 鈴鹿川本流の河口付近に夏羽のカンムリカイツブリが2つがいがいた。去年の8月にも、ここで目撃しているので近くで繁殖している可能性がある。



ミゾゴイ 前田 聡・シズコ



ハシブトガラス (白化) 堀田 正昭



ハチクマ：笹間 俊秋



アジサシ 笹間 俊秋

野鳥記録の投稿ページが新しくなりました

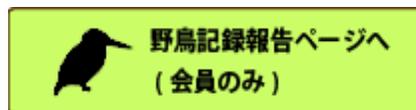
四日市市 ホームページ担当 三曾田 明

野鳥の会三重のホームページの「野鳥記録の投稿ページ」が新しくなりました。これまでは無料のフォームを提供してくれるサービスを利用していましたが、今後は全て野鳥の会三重のホームページシステムで運用することにしました。

当会のホームページは専門の会社に依頼しているわけではないので、十分なものではないかもしれませんが、少しでも良くしようと勉強しながら改善を続けています。不具合・ご意見などがありましたら、ホームページの「このサイトへのお問い合わせ」からお知らせください。

今回、新しく作成する上で改善した点

- 撮影した画像は複数選択可能（識別が難しい鳥の場合は、ぜひ、別アングルの画像も添付してください）
- 撮影した画像は8Mバイトまで可能（以前は1Mバイトまで）
- ログインユーザー向けのフォームを用意した（ログインユーザー＝会員なので、一部の入力が省略できます）



野鳥記録入力フォーム

野鳥記録入力フォーム **要ログイン**

お詫びとお願い

野鳥記録の登録ページの移行に手間取ってしまい、その間、利用された方にご不安とご迷惑をおかけしてすみませんでした。そのこともあったか、今回は野鳥記録の投稿がとても減っていました。

今後は、野鳥記録の過去データ検索機能なども作成してより充実させていきます。これまで投稿していただいた方も、これまで一度も投稿されていない方も、これを機会にぜひ投稿をお願いいたします。投稿に際し、初認者でなくともかまいませんので遠慮なく、観察された方は投稿をお願いします。

探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)



- 9月28日(土) 多度山タカ渡り探鳥会
開催地/桑名市 多度山3合目
集合/ 9:00 多度山登山口駐車場
解散/ 12:00 集合地
- 9月28日(土) 香良洲海岸探鳥会
開催地/津市香良洲町 香良洲海岸
集合/ 13:00 香良洲公園駐車場
解散/ 15:00 集合地
- 9月28日(土) 答志島タカ渡り探鳥会
※会員限定
開催地/鳥羽市 答志島(定期船で渡ります)
集合/ 7:30 鳥羽市佐田浜マリンターミナル
(8時発答志行き乗船)
解散/ 11:30 現地
備考/参加予約必要 小坂里香 090-6097-3283
- 9月29日(日) 伊勢タカ渡り探鳥会
開催地/伊勢市 伊勢やすらぎ公園
集合/ 7:00 やすらぎ公園納骨堂前
解散/ 11:00 集合地
- 9月29日(日) みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
※探鳥会中は禁煙をお願いします。
(牧場という場所柄火事の危険を避けるためです)
開催地/奈良県宇陀郡御杖村菅野みつえ高原牧場
集合/ 8:00 近鉄名張駅西口前
解散/ 12:00 現地
備考/参加予約必要 玉田 浩司 090-8383-7535
田中 豊成 090-4088-3164 参加費 1人300円
- 10月5日(土) 相津峠タカ渡り探鳥会
開催地/松阪市飯南町 相津峠
集合/ 8:30 道の駅「茶倉」駐車場
解散/ 11:30 現地(相津峠)
- 10月6日(日) 市木川河口及び水田探鳥会
開催地/南牟婁郡御浜町市木 市木川河口
集合/ 9:00 道の駅「パーク七里御浜」
解散/ 12:00 市木川河口
- 10月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
集合/ 9:00 愛知県弥富野鳥園
解散/ 12:00 集合地
- 11月10日(日) 中村川探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市嬉野一志町 中村川中流域
集合/ 9:30 ファミリーマート(旧サークルK)
前の駐車場(「中川駅北1」信号近く)
解散/ 11:30 現地
- 11月16日(土) 三滝川かんさつ会 小雨決行!
開催地/三重郡菟野町 三滝川河川敷
集合/ 9:30 大羽根グランド駐車場
解散/ 12:00頃 集合地
- 11月23日(土・祝) 海蔵川で鳥見 ing!
(バードウォッチング) 小雨決行!
開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い
集合/ 9:45 海蔵川代官橋 北詰
解散/ 12:00 集合地
- 11月23日(土) 安濃川河口探鳥会
開催地/津市高洲町 安濃川河口
集合/ 13:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋
解散/ 15:00 現地
- 11月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月27日と同じです。
- 11月24日(日) 神路ダム探鳥会
開催地/志摩市磯部町恵利原 神路ダム
集合/ 9:30 神路ダム(申込者に詳細をお伝えします。)
解散/ 11:30 集合地
備考/参加予約必要
前日までに、西村まで 090-1566-6010
- 12月8日(日) 員弁川探鳥会
開催地/いなべ市員弁町 員弁川周辺
集合/ 9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場
解散/ 12:00 集合地
- 12月8日(日) 身近な冬鳥を観察しよう
開催地/津市一身田上津部田
三重県総合博物館周辺の溜池 おおさん池等
集合/ 9:30 三重県総合博物館2階エントランスホール
解散/ 11:15 集合地
備考/参加予約必要 三重県総合博物館 059-228-2283
- 12月8日(日) ベルファーム探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市伊勢寺町 松阪農業公園ベルファーム
集合/ 9:30 ベルファーム 匠の館前
解散/ 11:30 現地
- 12月15日(日) 横山池・安濃ダム探鳥会
開催地/津市芸濃町 横山池・安濃ダム
集合/ 10:00 津市芸濃文化センター駐車場
解散/ 12:00 安濃ダム
- 12月15日(日) 磯部川水系探鳥会
開催地/志摩市磯部町穴川 穴川～迫間
集合/ 9:30 志摩市磯部町穴川公民館
解散/ 11:30 集合地
- 12月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月27日と同じです。

探鳥会報告 (2019年5月18日～2019年8月8日)



●三滝川かんさつ会

2019年5月18日(土) 9:30～12:10

三重郡菟野町 三滝川河川敷

矢田栄史 宮本英子 参加者25名(会員12名)

キジバト、イカルチドリ、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ
計16種

初心者向けバードウォッチングとして開催した。オオヨシキリ、ヒバリ、ムクドリ、スズメの巣立ちビナなどを、わりと近くでじっくりと観察できたのがよかった。

全員で一緒に動いたが、会員の人も多かったので、3つぐらいのグループに分けて動いても良かったのかなと思う。その方が初心者の方にとっては、より良かったかも？

●愛知川探鳥会

2019年5月19日(日) 9:00～15:00

滋賀県東近江市中津畑町 愛知川源流域

共催団体/三重山岳連盟

辻秀之 近藤義孝 参加者13名(会員6名)

ツツドリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、イカル 計19種

出発は雨の中カッパ着用での歩き出しでしたが、やがて雨も上がって、とても気持ちのよい一日となりました。

今回は三重県山岳連盟との共催で、参加者も山のベテランが多く、徒歩なども全く問題なく、時折オオルリやカラ類などのさえずりや姿に立ち止まりながら順調に進みます。愛知川源流に降りる頃には日も射して目的の大カツラに到着。お弁当を食べてから愛知川源流域を散策。暑くもなく寒くもなく、5月らしい気持ちのよい探鳥日和でした。

●霊山寺探鳥会

2019年5月19日(日) 9:00～11:30

伊賀市下柘植 霊山寺

前澤昭彦 南 一朗 参加者7名(会員6名)

キジバト、アオバト、ツツドリ、トビ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、キビタキ、オオルリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計25種

たくさんの鳥の声を聞くことができましたが、全体的に鳥が遠くて、かすかなさえずりに耳を集中することが多いでした。その中でヤブサメだけは近くでさえずりを聞きました。

津方面から3名の参加者がありました。遠くからご苦労様でした。

●伊勢おほらい町ツバメ探鳥会

2019年5月25日(土) 8:30～10:00

伊勢市今在家町 内宮おほらい町

西村 泉 参加者12名(会員7名)

アオサギ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト
計12種

新緑の季節、この時期としては異例の暑さとなりました。開店準備に追われるおほらい町の通りを、店舗の軒先をのぞきながら子育て中のツバメを探しました。親ツバメが参加者の頭すれすれに巣の戻ると、皆さんはツバメとの距離の近さに驚いていました。また、おほらい町で子育てしているムクドリやイソヒヨドリもじっくり観察できました。



アオゲラ

●木曾岬干拓地探鳥会

2019年5月26日(日) 9:00～11:30

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 18名(会員 15名)

キジ(2)、マガモ(2)、カルガモ(13)、キジバト(5)、カワウ(70)、アオサギ(6)、ダイサギ(6)、チュウサギ(1)、コサギ(1)、ケリ(7)、コチドリ(1)、チュウシャクシギ(1)、タカブシギ(1)、ミサゴ(2)、チョウゲンボウ(1)、ハシボソガラス(40)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(15)、ツバメ(5)、ヒヨドリ(2)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(2)、セッカ(10)、ムクドリ(6)、スズメ(30)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(6)、ホオジロ(3)、ドバト(5) 計 29種

日本中が暑い空気に包まれ、5月とは思えないほど高温でした。鳥の数も少なく、気温の低い早朝に餌をとって、休んでいたのかもしれませんが、遠くに、チョウゲンボウやミサゴは見ることはできましたが、チュウヒは観察できませんでした。

●倉骨岬探鳥会

2019年6月2日(日) 8:00～14:00

津市美杉町太郎生 倉骨岬

田中豊成 南一朗 参加者 12名(会員 6名)

アオバト(声2ヶ所)、ホトトギス(声1ヶ所)、ツツドリ(声1ヶ所)、カッコウ(声2ヶ所)、トビ(2)、コゲラ(2)、アオゲラ(声・ドラミング1ヶ所)、カケス(声)、ハシブトガラス(2)、ヤマガラ(2)、ヒガラ(親子6)、シジュウカラ、ツバメ(3)、イワツバメ(2)、ヒヨドリ(5)、ウグイス(声多数)、ヤブサメ(2)、エナガ(声)、メジロ(2)、キバシリ(1) ミソサザイ(3)、クロツグミ(声数ヶ所)、キビタキ(1)、オオルリ(3)、キセキレイ(1)、ホオジロ、計 26種

カッコウ、ツツドリ、ホトトギスやアオバトの声が聞かれた。コース上では、オオルリ♂♀が見られ、近くで営巣している様に思われた。クロツグミは数ヶ所で声がした。ヒガラの幼鳥は、羽をこきざみにしてエサをねだっていたのが可愛かった。ヤブサメはなかなか見られないが、地上で移動するのが見られた。杉の幹にキバシリ1羽も見られた。

色々な鳥が堪能できました。

●足見川探鳥会

2019年6月16日(日) 10:00～12:00

四日市市山田町 足見川

笹間俊秋 安藤宣朗 参加者 12名(会員 4名)

カルガモ、キジバト、カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、トビ、サシバ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計 23種

開始直前まで小雨がぱらついていましたが、徐々に晴れてきて薄日が差す天気となり無事開催することができました。

雨上がりと言うことで水田にはツバメが飛び回り、その中にはコシアカツバメも混じり、橋の下にはつぼ型の巣も見ることができました。そして上空にはサシバがつかいで飛翔してくれました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2019年6月23日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 17名(会員 15名)

キジ(1)、カルガモ(20)、カイツブリ(5)、キジバト(1)、カワウ(80)、アオサギ(15)、ダイサギ(9)、チュウサギ(2)、コサギ(2)、ケリ(20)、イソシギ(6)、ミサゴ(1)、トビ(1)、チュウヒ(2)、オオタカ(1)、カワセミ(1)、ハヤブサ(1)、ハシボソガラス(3)、ハシブトガラス(30)、ヒバリ(20)、ツバメ(100)、ウグイス(5)、オオヨシキリ(10)、セッカ(20)、ムクドリ(7)、スズメ(30)、ハクセキレイ(3)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(3)、ドバト(20) 計 30種

夏至の翌日ですが、チュウヒの餌渡しも観察できました。



オオルリ

●木曾岬干拓地探鳥会

2019年7月28日(日) 9:00～11:30

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 15名(会員 12名)

マガモ(8)、カルガモ(19)、キジバト(2)、カワウ(35)、アオサギ(13)、ダイサギ(2)、チュウサギ(6)、コサギ(1)、コチドリ(2)、ミサゴ(1)、トビ(1)、チョウゲンボウ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(20)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(10)、ツバメ(120)、ウグイス(3)、セッカ(10)、ムクドリ(1)、スズメ(60)、ハクセキレイ(4)、カワラヒワ(6)、ホオジロ(3)、ドバト(50) 計 26種

暑いために、終了時刻を早めました。チュウヒも観察できず、合計 26種しか出てくれませんでした。

●立山アルペンルート宿泊探鳥会

2019年8月7～8日(水・木) 7:30～18:30

白川郷自然学校、天狗平、室堂

近藤義孝 笹間俊秋 参加者 25名(会員 25名)

カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、トビ、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メボソムシクイ、イワヒバリ、カヤクグリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ウソ、ホオジロ、ドバト 計 23種

台風の接近のため、天候が心配されましたが、終始晴天に恵まれました。

今回は遠方のため、1日目は白川郷自然学校で休憩したのみで、目的地に向かうだけでした。それでもアルペンルートではバスの中から美しい風景や滝が見られました。ホテルでは皆さん美しい夕日や星空を堪能していました。

翌日はホテル前で朝日や野鳥・高山植物を観察し、午前6時に室堂へ出発して、みくりが池周辺で探鳥しました。残念ながら目的のライチョウは見られませんでした。カヤクグリ、イワツバメやイワヒバリなどが観察できましたし、高山植物なども楽しめました。



カワラヒワ

編集後記

しろちどり 101号を編集した。しばらくぶりに自分でレイアウトを考えて、組んだ。思いのほか手間取り、満足いくものとはなっていないが、おおよその形は整えた。

近年は便利な PDF ファイルというものがあり、印刷された冊子を手にとらなくても、内容を見ることができるようになった。会報「しろちどり」もホームページ上で創刊号から開示している。古い号には会員の住所や電話番号など、開示するのにふさわしくない情報も多かった。これらはむろん、削除した上で公開した。結構その削除に手間取った。

時々鳥の話題、行事の記事の他にも探鳥会で出現した鳥の記録もある。むろん、十分に精査された記録ではなく、リーダーの識別能力にも大きな差があるが、まとめると様々なことが分かるに違いない。鳥の記録は珍鳥ばかりが重要なのではない。普通にいるはずの鳥がいたか、いなかったか、さえずっていたかも重要な記録である。誰か会報上のデータの解析を手掛けてくれる人が出てくればよいのだが。(M. H.)

しろちどり 101号

2019年9月15日発行

題 字：濱田 稔

表紙絵：小坂 里香

カット：平井 正志

編 集：平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所：日本野鳥の会三重

平井 正志 方

〒514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

ホームページ <http://miebird.org/>

印 刷：株式会社プリントパック

〒617-0003 京都府向日市